



国際的に活躍する専修人を紹介する「Globali専修tion(グローバル「専」ション)」。3回目は、米国ネブラスカで看護師として働くロンホヴディあずさんにご登場いただく。

Nurse Practitioner

ロンホヴディ あずさん (旧姓 松本、平15文)

AZUSA RONHOVDE



誇り持ち、医療現場の第一線で働く

—英語との出会いは。

幼い頃から英語が好きでした。専大附属高3年の時に導入されたホームステイプログラムでニュージーランドへ。初めての海外生活が楽しくて楽しくて。文法もライティングも苦手だけど、コミュニケーションが大好きだったので、大学では長期留学しようと決めていました。

—3年次で米国ネブラスカ大学リンカーン校に長期交換留学へ。

まる1年間、留学できるプログラムがネブラスカだという理由で選びました。私が住んだ寮には、全世界から留学生が集まっています。へたな英語でもとにかく使ってみる、そうすると上達します。とにかく、いろいろな人と交流したいというのが、私の英語の出発点です。

—文学部から看護師へ。きっかけやお仕事について

教えてください。

留学中に夫と出会い、卒業後すぐに再渡米して結婚。専大で取得した英語の教員免許は、米国では生かすことができません。そこで思い出したのが、小さい頃からの夢だった看護師。ネブラスカ大学メディカルセンター看護科で学びました。専門用語には手を焼き、最初は教科書1ページを読むのにも何時間もかかっていました。資格を取得し、地元の病院で脳神経内科や外科を担当して14年。昨年、上級の看護職であるナース・プラクティショナー(Nurse Practitioner)のライセンスを取得しました。

ナース・プラクティショナーは一般の看護師と違い、カルテのレビュー、診察、診断、薬や治療の処方、経過観察などを行います。資格取得のために博士号も取りました。

医師とのコミュニケーションを通して、ほかの医療従事者とチームでケアします。脳神経外科に緊急搬送された患者さんの検査結果を解説し、治療を提供します。

緊急措置は1秒を争います。例えば、搬送された時は体が動かず言葉も出なかった患者さんが適切な治療の結果、普通の生活を送ることができるようになります。回復された患者さんを見ると、とても励みになります。

—この2年はコロナ禍に見舞われました。

新しい病気だから治療計画も度々変わり、毎日が嵐のよう。残念ながら亡くなる方もいました。ナースとは、手を差し伸べて患者を助ける仕事です。けれどコロナでは触れることが許されない。何かしてあげたいのにできないのはつらかった。まだまだ大変な日々は続いています。ナースとして、素晴らしい仲間とともに第一線で働いていることに誇りを持っています。

専大生へのメッセージ

If you can dream it, you can do it.

By Walt Disney

有名な言葉なので、知っている人も多いでしょう。「夢を描くことができればきっとできる」。今はさまざまな活動が制限され苦しい状況です。でもだからこそ、できること、やりたいことをクリエイティブに考えて突破していこう。私自身、仕事をしながら家庭を持って、資格の勉強もして、とギブアップしそうな時がありました。そんな時、同僚がかけてくれた言葉は「It's mental」。どれだけ踏ん張れるか、気持ち一つだけによって励ましてくれました。今は不可能なことでも、いつかかなうと信じて、自分が心に決めた「夢」に向かって、しぶとく踏ん張ってほしいと思います。

東京2020のレガシー検証

スポーツ研究所公開シンポジウム

専修大学スポーツ研究所(佐竹弘靖所長)の公開シンポジウム「東京2020は日本の未来に何を遺したのか」が12月16日、対面とオンラインのハイブリッド形式で開催された。

はじめに、日本スポーツフェアネス推進機構代表理事で筑波大学名誉教授の河野一郎氏が講演した。河野氏は五輪の東京招致に尽力。レガシーには正と負両面があるとしたうえで、東京大会のレガシーとして「安心安全な大会運営」「オリ・パラの協同」「新たなコンディショニング・コンセプト」などを挙げた。

続いて行われたディスカッションでは、東京五輪パラトライアスロン銀メダリストの宇田秀生氏、文学部の久木留毅教授(ハイパフォーマン

スポーツセンター国立スポーツ科学センター長、商学部の富川理充教授(日本トライアスロン連合パラリンピック対策チームリーダー)が意見を交わした。

久木留毅教授は、ハイパフォーマンススポーツセンターの機能や、蓄積した知見をパッケージ化して社会に還元する取り組みなどを説明した。パラトライアスロンへ

入ることで選手村に入り、自信を持って選手村に入った。宇田氏は「良い状態に仕上げてもらい、自信を持って選手村に入ることで選手村に入った。学生からモチベーションの保ち方について質問された宇田氏は「自分の成長を楽しむ姿勢が大」とアドバイスした。

船橋兼任講師の監督映画が公開

国際コミュニケーション学部の兼任講師である船橋淳監督の最新作『ある職場』が3月5日(土)から東京・ポレポレ東中野で公開される。

この映画は、実際に起きたセクハラ事件を振り返るかたちの会話劇。船橋監督は「フタバから遠く離れて」などのドキュメンタリー作品でも知られるが、本作はプライベートシーを尊重し、フィク

シオンとなった。ところが、シナリオはなく、舞台設定だけで俳優たちが即興に近い演技をしている。主演の平井卓紀は「観てくださった方の明日に少しでも勇気をもたらすものであることを、切に願います」と語っている。職場において本心に大切なものは何かを考へさせる映画だ。ぜひ多くの方に観ていただきたい。

船橋監督は本学で「映像音楽系特殊講義」を担当している。『ある職場』公式サイト <http://arushokuba.com>

ッドコーチを務めた富川教授が「やるべきこと」でできることは全てやった」と語る。宇田氏は「良い状態に仕上げてもらい、自信を持って選手村に入ることで選手村に入った。学生からモチベーションの保ち方について質問された宇田氏は「自分の成長を楽しむ姿勢が大」とアドバイスした。



拡大に伴う学生支援の寄付を行った。1月26日、桃野直樹校友会会長と後藤康夫校友会会長が神田キャンパスを訪れ、日高義博総長らが見守るなか、松木健一理事長、佐々木重人学長に目録を手渡した。校友会は、緊急支援奨学生募金への寄付、WEB教科書販売の送料、食料支援プロジェクトへの支援、教育環境充実支援(飛沫防止パーティション、教室用サーキュレーター、対面授業に備えた施設・学食への支援など)に合計1500万円を寄付した。

自然科学研究所公開講演会

シミュレーションの重要性と事例を解説

自然科学研究所(小林昭裕所長)の第23回公開講演会が12月11日、生田

キャンパスで対面とオンラインを併用した形式で行われた。今回は、ネットワーク情報学部の小田切健太准教授が「社会におけるシミュレーションの活用とその意義」と題して講演した。

交通渋滞や動物の模様など、世の中の現象を数理モデルで表現できると説明し、「物理学における数式とは、単なる数字の羅列ではなく、自然現象を表す言葉である」と魅力を伝えた。



シミュレーションは新型コロナウイルスに関する研究でも「与えられた条件下における一つの可能性」であることを意識する必要がある」と語った。

数理モデルの魅力話す小田切准教授 Rモデル)を紹介し、感染拡大期に示された「人との接触を8割減らす」という行動様式の根拠を説明した。

船橋監督は本学で「映像音楽系特殊講義」を担当している。『ある職場』公式サイト <http://arushokuba.com>

船橋監督は本学で「映像音楽系特殊講義」を担当している。『ある職場』公式サイト <http://arushokuba.com>

最終講義のご案内

柴田 隆 国際コミュニケーション学部准教授

◆3月15日(火)4時限目(14:50~16:20)

◆神田10号館10031教室(黒門ホール)

※オンライン配信も行います。詳細はin Campusでご確認ください。

「ニュース専修」年間購読のご案内

「ニュース専修」をご愛読いただきありがとうございます。2022年度の年間購読者を募集しています。購読料は1000円(税込・郵送料含む)です。※校友会員及び年会費納入済みの校友会員はお手続き不要です。※本年3月に卒業される方には、5年間校友会からお送りいたします。

〒101-8425(専用郵便番号) 千代田区神田神保町3-8 専修大学広報課

☎03-3265-5819 E-mail: koho@acc.senshu-u.ac.jp

校友会情報

◆新校友歓迎祝賀会 中止のお知らせ

例年、卒業式終了後に開催しております校友会主催の新校友歓迎祝賀会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、卒業式が2部制で実施されることに伴い、中止とさせていただきます。なにとぞご了承いただきまして、誠にありがとうございます。

◆年会費納入のお願い

2022年度の校友会年会費(3000円)を受け付けています。振込用紙の必要方は校友会事務局までご連絡ください。acc.senshu-u.ac.jp

【校友会事務局連絡先】

☎03-3265-7579 / FAX 03-3265-7579

086 / E-mail: koyukai@acc.senshu-u.ac.jp